［巻頭言］

インターディシプリナリーな研究・教育活動の推進を

副学長　米林喜男

インタープロフェッショナルエデュケーションの前提のひとつに，インターディシプリナリーアプローチ（学際的研究とか異専門間協業などとも訳される）の成果がなければならない。では，インターディシプリナリーアプローチとはいかなる研究を指すのであろうか。かつてOECDは，大学教育・研究におけるインターディシプリナリーの調査を実施した際に，関連する基本用語の定義を行っている。まず，ディシプリン（discipline/学科）については，教授可能な知識の集合体で，教育，訓練，手続き，方法および内容領域について，それ自体の背景をもっているものとしている。すなわち，ディシプリンには訓練，しつけといった意味もあるところから，学術知識の単位であると同時に，訓練の単位でもあることがうたわれている。次いで，インターディシプリナリー（interdisciplinary）については，２つまたはそれ以上の異なる学科間における相互作用を述べる形容詞であるとし，この相互作用には理念の簡単な伝達から，概念，方法論，手続き，認識法，用語法などの相互的統合までの幅があるとしている。なお，インターディシプリナリーの活動にたずさわる人のグループは，さまざまな知識分野（学科）で訓練を受けた人々によって構成されるために，これらの人々は，それぞれ異なる概念，方法論，データを持っている。しかしこのグループは，その構成員間で継続的な相互伝達を行うことによって，共通の課題について共通の努力を試みるように組織されているとしている。

また，学科の組み合わせについては，この他に，次の３つのものが予想されるとして，それぞれについて簡単な定義をしている。まず，マルティディシプリナリー（multidisciplinary）である。これは，多様な学科を併置したもので，それらのあいだには特にはっきりしたつながりがないものをさす。たとえば音楽，数学，歴史といった組み合わせが相当する。次に，プルーリディシプリナリー（pluridisciplinary）であるが，これは，多少なんらかの関連性を有すると思われる学科を併置したものである。たとえば，数学，物理とか，フランス語，ラテン語，ギリシャ語といった組み合わせである。３つめは，トランスディシプリナリー（transdisciplinary）である。これは，ひと組の学科に共通した原理体系を確立したもので，たとえば，ラルフリントンによって“人間とその業績についての科学”と定義されているような人類学が相当する。

最近は，トランスディシプリナリーは単にディシプリンをこえるという形態的特徴を有するのみならず，問題解決のために総合的・多角的にアプローチするという知的活動の様式であるとの認識も広がりはじめている。

現在，インターディシプリナリーの名で試みられている研究･教育活動は，実際のところは大半が，せいぜいプルーリディシプリナリー的組み合わせかあるいはマルティディシプリナリー的な組み合わせであることが多い。

今後，ますます現実社会が複雑化していくに従って，ディシプリンに基礎をおく研究や教育では，さまざまな問題への対応に限界が生じてくるであろう。そこで，問題指向のトランスディシプリナリーと，複雑な問題や新しい現象に対して，諸科学が協力して多面的に取り組むインターディシプリナリーの確立こそが，真の研究や教育の革新につながり，そして，その成果をインタープロフェッショナルエデュケーションに結びつける努力が待たれる。

最後に，トランスディシプリナリーにせよインターディシプリナリーにせよ，異なる学科間の協同研究や連携教育にあたって，気をつけなければならないことに若干言及しておきたい。まず，ともすれば自分中心に考えるという研究，教育者に特徴的な意識や行動を変容しなければ，協同研究も連携教育もむつかしいと思われる。次いで，異なるディシプリンに対しては，互いにその違いを認識し，相手の弱点を批判するよりも，自らのディシプリンの足らざるを認め，それを補うために協力をし合うという態度が大切である。そして，最後に，インターディシプリナリーな研究・教育活動が一定の成果を生むためには，それなりの時間と経費とマンパワーを必要とすることはいうまでもないことである。なかでも，経済的なバックグラウンドなしには，インターディシプリナリーな活動は困難といわざるをえない。したがって，普段から研究・教育資金の獲得に努力するという姿勢は，インターディシプリナリーな活動に参画するものの必須の条件といえるであろう。

米林喜男　新潟医療福祉大学副学長兼社会福祉学部長
［連絡先］　〒950-3198 新潟市北区島見町 1398 番地
新潟医療福祉大学社会福祉学部